

2022年度 活動計画（案）

少子高齢化時代を迎え、安心して心豊かに生活するための環境づくりは、私達にとって重要な課題です。高齢者や障がい児・者そして子育てへの支援は、連合自治会、住宅管理組合協議会、認定NPO法人若葉台、そして若葉台で活動している多くの諸団体と連携しながら進めていかなければなりません。安心して生活するための環境づくりや災害時における要援護者の安否確認の対応など、各自治会の見守り活動などの具体的な取り組みと併せて、2021年度地区社協賛助金募集時に寄せられた意見・要望をもとに、関係団体へ働きかけ、解決に向けて推進してまいります。



1. みんなで取り組む社会福祉活動の推進

(1) 高齢者福祉活動

① 老人クラブ（かがやきクラブ）への支援

かがやきクラブの地域への様々な貢献（高齢者見守り活動、子ども達の見守り、赤い羽根街頭募金活動、公園等の清掃活動）や介護予防に通じる種々な活動に、地区社協としても支援していきます。また、かがやきクラブの会長会議に参加し情報提供・情報交換に努めてまいります。

② 地域交流会

老人クラブをはじめ、若葉台で活動されている各種サークルに声かけして広く参加者を募って地域交流する会を6月5日（日）に若葉台中学校体育館で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大で演目練習もできないので、参加が難しいとの声が多く中止にしました。尚、2021年5月に実施したサークル調査では10団体が交流会への参加を希望されています。

(2) 子育て支援活動

① 子育て部会の活性化

若葉台における子育て環境の現状を調査・把握して、地域内の子育て関係団体、グループのそれぞれの事業や活動が効果的に行えるように、地区社協は役員会・運営委員会に参画し、その活動を支援します。

② スタンプラリー（多世代交流として開催）

前年度と同じく未就学児を持つ子育て世帯を対象に子育てスタンプラリーを開催します。さらに、小・中・高・大生をターゲットに子育てスタンプラリーを開催する予定です。学生の皆さんに若葉台の中をグルッと廻って、自分たちの住む若葉台をもっと知ってもらい、若い世代による若葉台の魅力発信につながるよう支援します。

③ 子どもの居場所づくり

高齢者の増加とは逆に、2022年3月末の18歳未満の人口は1,108人

(8. 3%)と更に低下しています。「横浜若葉台こどもみらいづくり宣言」でも謳われている「～こどもたちの声で「にぎわうまち」を目指して～」、集居室・ピロティ・公園を活用して、居心地の良い場所・雰囲気であるとともに、保護者にとっても生き生き(夢を実現)できる居場所づくりを、子育て世帯はもとよりPTA、小中学校、老人クラブ、住宅管理組合・住宅管理組合協議会、その他関係組織の協力を得ながら目指します。

特にきらっとあさひプラン地区別計画目標C「だれもが気軽に集まれる身近な場がある」の具体策「ふれあい花壇」はわかば学園の花壇と連携して推進します。

④ その他事業への支援と協力

◆【プレイパーク】毎月の開催を支援・協力していきます。

◆【サロンみんなあつまれ!!】開催を支援・協力していきます。

(3) 障がい児・者支援活動

① 障がい児・者の居場所づくりの取り組み

前年度に引き続き、当事者の皆様とゆるやかな地域交流を進めていき、障がいのある人たちが地域の中で心豊かに生活できるよう、脳血管疾患やその他病気で中途障がいになられた方々のリハビリを通して仲間作りの居場所として、当事者団体と連携しその環境整備に取り組んでまいります。

② 障がい児・者理解「ふれあいフェスティバル」開催

若葉台における障がい児・者理解の場として、障がい児・者の日頃の活動の発表の場として若葉台文化祭で「ふれあいフェスティバル」を開催しています。さらにより一層障がい児・者の交流・理解を推進するために、若葉台中央広場等の野外で「ふれあいフェスティバル」を開催する事を検討します。

③ 地域住民とのふれあいの場

体力の向上、機能回復後を目的としたふれあいの場として、地区社協が開催している移動サロン「ほっこり」などの場において、ポッチャ等の活動をします。

④ その他事業への支援と協力

◆【裕楽会】開催を支援・協力していきます。

(4) 地域交流活動

① 福祉体験「孫子老の日」開催

イベントの多い若葉台の特性を生かした福祉体験を実施します。若葉台にお住まいの高齢者、近隣の高齢者施設の方々、ならびに若葉台小学校・中学校およびPTA、霧が丘高等学校にご協力していただき、地域の子どもと大人で三世代(孫子老)疑似家族になっていただき、買い物や食事を共にし、イベント参加を通して交流することで福祉の体験を深めます。具体的には、若葉台地域ケアプラザの福祉フェア、地区社協感謝デー、VOSC主催の若葉台文化祭、みんなあつまれ等へ、疑似家族で参加する予定です。

② 第34回若葉台地区社会福祉協議会感謝デー開催

2022年11月3日（木）に若葉台の住民の皆さまに、感謝の気持ちを込め楽しんで頂けるように開催いたします。

③ 第20回多世代交流「みんなあつまれ」開催

3年ぶりに新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、規模を縮小して開催した昨年度に引き続き、2023年5月5日（金・祝）遊水池グラウンド（若葉台公園多目的広場）で開催します。子どもから高齢者までの多世代の方々が参加し、今流行りの遊びも取り入れて、コロナ感染防止対策を実施して楽しめるイベントを行います。

④ 「カフェわかば」ボランティア

「カフェわかば」運営を見守るボランティアの募集を広く・継続して行い、多くの皆様に参加して頂くことで、ボランティア一人ひとりの負担を軽減して、長く継続してご協力頂けるようにするとともに、ボランティアのみで月曜日も営業して、今まで以上に「カフェわかば」が地域の人たちの交流の場として利用されるように活動を継続します。さらに実績を積み重ねて、わかば学園休校日の土日にも営業できることを目指します。また、わかば学園とボランティアとの意見交換会を年2回ほど開催する予定です。

⑤ 学校連携

創英大学との連携を継続し、プレイパークや若葉台地区民生児童委員協議会の放課後支援事業たんぼぼ等の事業の開催状況に合わせて従来の活動を再開します。そして新たに連携できる事業がないか模索していき、さらに事業に参加してもらうだけでなく企画段階から参加して頂けるように、連携の仕方についても話し合いを行い、新たな地域交流のかたちを目指して取り組みます。

⑥ 移動サロン活動の展開

2019年11月からまちづくりセンターの協力を得て、毎月第一火曜日にわかばの広場で開催している移動サロン「ほっこり」には、毎回多くの皆さまが訪れてくださり、認知度も少しずつ向上してきており、地域における居場所として定着してきました。新型コロナウイルス禍において大変に貴重な居場所にもなっており、今年度も継続して開催していきます。

また、若葉台中央まで出て来られない方、既存のサロンに参加できない方の居場所となるようサロン活動を展開して、「あいさつ運動」と共に、困った時に声をあげられる雰囲気のある街づくりを目指します。



(5) 見守り活動

① 地域見守り活動報告会

連合福祉地域部と共催で2023年3月5日に開催します。

② 包括的な見守り活動「ご近助ほっこり活動」

旭区社会福祉協議会及び19地区社会福祉協議会では、課題を抱える世帯（個人）を早期に発見し、住民自らの力で課題解決し、必要な支援につなげていくために、地域社会からの孤立を防ぎ、様々な困り事を早期に発見し、問題解決につ

なげていくための新しい包括的な見守りの仕組み「ご近助ほっこり活動」に取り組んでいます。

19地区でも高齢者が多く（平均年齢59.8歳、男性58.5歳、女性60.9歳、2022年3月末時点）、若年者が少なく、世代循環が求められている若葉台は、より積極的に取り組んでいく必要がありますので、自治会をはじめ関係組織のご協力をいただきながら、地区レベルでの合意形成を図り、地域全体で問題解決に引き続き取り組んでまいります。若葉台地区社協でも自治会等と協働して取り組む事にし、自治会に出向いて活動の趣旨説明会を開催させて頂き、活動への理解と参加・協力を呼びかけました。未だ参加自治会は少ないですが引き続き協力をお願いして参ります。

(6) 生活困窮者支援

新型コロナウイルスで苦しい生活を送る方々が増えるとともに、生活を立て直すことも難しい状況が続いています。生活にお困りの方が地域とつながるきっかけになる事を願って、旭区社会福祉協議会と地域住民の皆さまと協力して、生活困窮者向けのフードドライブ（食品の寄付運動）および日用品・消耗品等の頒布会を開催します。

2. 福祉活動を支える活動

(1) きらっとあさひプラン（旭区地域福祉保健計画）

団塊の世代が全員75歳以上になる2025年度に対処するための「第4期旭区地域福祉保健計画」（令和3年度～7年度）の策定と、その計画に基づく、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマにした具体的活動を関係組織の支援を頂きながら推進し、『困った時に声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』を目指します。

(2) ボランティア団体への支援

「わかばネット」など見守り活動をはじめとした地域福祉活動を実施している団体に対する支援を継続していきます。

「若葉台なんでも相談」は、地域住民にとって地域の問題を地域で解決するための大切な窓口となっており、相談を必要とする方々の窓口として、充実した活動ができるよう、引き続き支援してまいります。また、支援団体とは年2回の情報交換会を開催します。さらに今まで地区社協とつながりのなかったボランティア団体にも交流の輪を広げてまいります。

(3) 助成金

2022年度もボランティア団体、当事者団体等へ助成いたします。新たに若葉台が抱える福祉課題に果敢にチャレンジして頂ける団体の発掘を目指します。

(4) 赤い羽根街頭募金協力

2022年度も10月1日(土)～10月3日(月)に各団体・個人のご協力をいただき、街頭募金をイトーヨーカドー前などで実施します。

3. 広報活動

(1) 広報紙「社協だより」の発行(年6回の発行)

毎回社協の活動を中心に、若葉台で活動中のボランティア団体の活動などの紹介はもちろん、地域福祉の充実に向けて、地区社協のみならず地域でいろいろな活動されている様子や、地区社協の目指すところの地域包括福祉を実現するための様々な情報を提供します。

(2) インターネット活用

地区社協の目指すところの地域包括福祉を実現するための様々な情報を、2021年9月に立ち上げた地区社協独自のホームページの充実を図って提供します。また、2022年1月に開設したTwitterでの情報発信にも務めます。



<https://www.wakabada-i-chikushakyou.org/>



<https://twitter.com/chikushakyou>

(3) 地区社協をもっと知って頂くために！

きらっとあさひプラン第4期旭区地域福祉保健計画も2年目に入りましたが、活動推進には若葉台にお住まいの皆さまに知っていただくことが何よりも大切だと考えています。さらに、地区社協の活動を知らない方が、まだまだ大勢いるのも事実ですので、2019年度から開始したこの活動を継続します。

(4) 助成金交付団体の広報

助成金を交付しているボランティア団体、当事者団体等(別表1参照)の方々にご理解をいただき、前年度活動と次年度活動計画を総会議案書に掲載するとともに社協だより等で広く周知し、活動内容の共有化を図って、ネットワークの強化につなげ、さらに新しい活動が作り出せるよう検討します。

(5) 諸団体の広報支援

若葉台における地域福祉課題である「参加できる機会」、「居場所づくり」の課題解決に向けて、若葉台で活動されている諸団体・サークルを社協だより等で紹介する広報活動を実施します。

(6) 他媒体による情報提供

昨年に続き「連合自治会ブログ」、「みんなの若葉台」、「若葉台子育てカレンダー」、「わかまちインフォメーション」等へタイムリーな情報提供をしていきます。

4. 研修・講演会の実施

(1) 役員・理事研修

地区社協の活動や地域福祉を推進する地区社協の役割などについて、共通理解を深めるための研修会を実施する予定です。

(2) 講演会

住民の皆さまの福祉に対する関心が高まっています。今日的な課題理解のために講演会を若葉台地域ケアプラザ、旭区社協の協力を得ながら開催する予定です。

5. 地区社協活動

(1) 理事会・役員会等

定例役員会（第1水曜日）、理事会（第3木曜日）、福祉保健部会（第2木曜日）に加えて、子育て部会、障がい者部会、各事業、活動毎の部会・実行委員会を開催します。

(2) 賛助金募集活動

地区社協活動のための大切な資金となるものです。今年度も、地域の皆さまには2023年1月に、団体・法人の皆さまには2～3月に賛助会費のお願いを計画しています。

(4) 賛助金募集時の意見のまとめと提言

賛助金募集時に頂いたご意見から若葉台地区社協が何をすべきかの視点でまとめ検討を行います。検討した結果は関係団体に提言し改善を働きかけてまいります。また、社協だよりでも随時お知らせしてまいります。

6. 委員会等への参加

地域の福祉団体等と連携し福祉の充実を図るため、また、住みよいまちづくりをめざして2021年度と同様に委員会等に参加してまいります。

7. その他

(1) 時計設置

2021年度の定期総会で承認していただきました「わかばの広場」への時計の設置をします。